

学位記授与式 式辞

本日ここに、蔵田東広島市長ならびに学校法人常翔学園 久禮理事長を初めとしまして、多くのご来賓の皆様のご列席のもと、2015年度広島国際大学 学位記授与式を挙行できますこと、誠に慶賀に存じます。本日、大学院修了生、助産学専攻科修了生そして学部卒業生、総計941名の皆さんは、所定の課程を修められ学位を授与されました。卒業並びに修了、おめでとうございます。また学生の皆さんを支えて下さったご家族・関係者の皆様に広島国際大学を代表して心からお祝いを申し上げます。本日は留学生の皆さんも卒業されますが、学問の修得はもちろん言葉や文化、風習の違いを乗り越え今日この日を迎えられることに、敬意と感謝の意を表します。また、この場を借りて、学生の皆さんを指導し、支えて頂いた広島国際大学の教職員の皆様に、お礼を申し上げます。

<自信を持って活躍を>

さて、皆さんは広島国際大学に入学され、本日の学位記授与式を迎えられました。不安と期待を胸に入学宣誓式を迎えた、あの日、入学したら、こうしよう、ああしよう、という想いを持っておられたと思います。その想いは叶えられましたか。振り返ってみて満足がいく学生生活を過ごすこ

とができましたか。期待以上だった、という人がおられる一方、なかなか思うようにできなかった、という人もおられると思います。いずれにしても、様々な困難を乗り越えてこられた皆さんは、確かに成長しておられます。皆さんが年を重ね過去の人生を振り返った時に、広島国際大学で一生懸命に頑張った勉強や課外活動などさまざまなことが、こんなにも役に立ったとわかるはずです。自分を信じて、自信をもって、歩いて行って下さい。

<将来像>

広島国際大学は、1998年「保健・医療と福祉を軸に世界平和を創造する大学」という理念のもとに開学しましたが、その時の学生募集ポスターには「新しいしあわせの創造を目指しています」と書かれています。また、大学歌にも「人類の幸せ創りゆく」というフレーズがあります。このように、設立当時から「しあわせ」が本学における使命のキーワードでした。このような背景のもと、昨年11月に本学の将来像を「ともにしあわせになる学び舎」と決めました。

<いい人間関係を築き、連携してしあわせになろう>

「ともにしあわせになる」ということは、「いい人間関係を築き、連携することで、広島国際大学に関係する皆がしあわせになる」ということを

意味しています。

ハーバード大学の研究者が、1938年から724人の若者を対象に75年間にわたり健康やしあわせについて追跡調査を行っています。その結果から、年を取ってからの幸福度に最も重要なのは、若いときの人間関係だと結論づけています。人間関係の数ではなく、質が重要であり、孤独は人を殺す、とまで言っています。

皆さんは、学外実習やインターンシップ、チーム医療やチームケアを推進するための専門職連携演習を初めとする学内の演習や実習、さらには課外活動、遊びを通して、チームのメンバーが連携することの重要性を実感されていると思います。皆さんがそれぞれの分野でのプロフェッショナルとなること、チームのメンバー同士がよい人間関係を築くこと、そして、素晴らしい連携をしていくこと、これらが、チームのパフォーマンスを上げるとともに、自分の、また関係した人々のしあわせにもつながっていきます。皆さんは、これから仕事におけるチームだけでなく、様々なチームの一員となります。自分だけでなく、周りの人も巻きこんで、ともにしあわせになって下さい。

<挑戦する気持ちを忘れずに>

将来像の「ともにしあわせになる学び舎」における「学び舎」は、もちろ

ん、入学してきた学生さんが教職員と共に学ぶ場、という意味ですが、これに加えて、地域の方も含め、広島国際大学に関係する人々がともに学ぶ場となりたい、という意味も込めています。これから皆さんは大学院へ進学したり就職したりし、各々の目標を目指し新たなる旅立ちをされます。これから皆さんが歩む道は緩やかな道もあれば、険しい道もあるでしょう。新しい道を歩くときには、様々な知識や経験が必要になります。その時には是非、母校である広島国際大学を利用して下さい。皆さんがこれからの道を歩いていくときの、学び舎になりたい、という想いを「ともにしあわせになる学び舎」という将来像に込めています。

新しい道を歩いて行く時、広島国際大学で教育を受け、研鑽をつんでこられた皆さんには、是非、あえて険しい道を歩くという、挑戦する心構えを持って頂きたいと思います。皆さんもよく知っておられるように、現代の社会は高齢化やグローバル化などが進み、技術の進歩も著しいものがあります。先日、囲碁の世界では、あと10年はかかるだろうといわれていたにもかかわらず、人工知能がヨーロッパチャンピオンに勝ったことが話題となり、昨日は世界トップクラスの韓国のプロ棋士との5局勝負において初戦を制したことが大きく報道されました。また、ロボットが受付や掃除をするホテルが出現していますし、自動運転の車も実用化されようとしています。このように、変化すること、挑戦することを恐れていたら、人工知能に仕事を奪われてしまう、という現実が目の前に迫ってきています。

挑戦すると失敗することもあるでしょう。確かに現在の日本は失敗に厳しい社会ではあります。ですが、このように急激に変化する社会においては、挑戦しないことはリスクになります。また、何かに挑戦することによって、ブレークスルーや皆さんの成長がありますし、それが人の役に立つこと、しあわせにつながります。絶えず勉強をし、挑戦をして欲しいと思います。

<結びに>

本学は、2年後に開学20周年を迎えます。どのような記念行事を行うかは、これから検討してまいります。皆さんを含め1万3000人余りの卒業生も何らかの形で参加できる行事が出来ないかと思案しているところです。案内がありましたら是非積極的に参加して下さい。加えて、皆さんには、これからは、校友会の一員として、後輩たちの支援や指導、そして本学へのご支援を頂くとともに、私たちとともに学んでいてもらいたい、ということをお願いして、式辞とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。皆さんのご活躍を心から祈念致しております。

2016年3月10日広島国際大学 学長 焼廣益秀